

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和元年 11 月発行 117-5

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

子どもが作る《わたしのコモリウタ》

八王子お手玉の会が珍しい行事を共同開催

八王子お手玉の会（鈴木幸子会長）は、このほど八王子市で DA/LEDA（ダ・レダ）代表の鈴木久仁子氏（以下・久仁子氏）らと、「子どもが作る《わたしのコモリウタ》」と『パラレルワールドお手玉』世界でひとつだけのこもりうた」という珍しい催しを開催しました。

久仁子氏は、何度も八王子お手玉の会を訪ねられ、お手玉の体験や意見交換をする中で、「お手玉」と「こもりうた」との共感性を強く感じられ、「子どもが作る《わたしのコモリウタ》」のパラレルワールド（並行世界）として「お手玉」ができないかと、声をかけられました。



「世界でひとつだけのこもりうた」は、久仁子氏が2017年に川崎市で、世界で初めて実施した、わが子のために親御さんが自分の言葉と自分の声で作る「わたしのこもりうた」のことで



ある時お母さんが子守唄を作っていると、年長さんや小学生のお子さんが、「自分も作りたい」と言い出し、やってみたところ、歌ができあがったのです。それは、「子守歌」ではなく自分の大好きなものを歌詞にちりばめた、「自分のための歌」でした。自分の心や魂を守る歌です。

その最大の課題は1対1の「採譜」という作業の間に生じる、子どもたちの待ち時間です。その待ち時間を楽しく過ごすのが、八王子お手玉の会の役割です。

いろいろなタイプの子どもがいる中で、子どもや施設の先生、保護者の方々の感想も含めてフィードバックしたいと伺い、元八王子保育園園長を紹介しました。（写真右：八王子保育園の子どもたち）

最初の「ことばあつめ」のために、大きなくまちゃんが登場。うたあり、手遊びあり、パネルでの劇方式の分かりやすい説明で「ことばのおうち」が作られていきました。（写真左：大きなくまちゃんも登場）

実際の作業は、グループごとに音楽の先生と保育園の先生がつきました。まだ字が読めない園児には「あいうえお…」のシールを使って言葉を作っていました。「おとあつめ」は園児が発する微妙な抑揚を、音楽の先生が採譜していきます。採譜には、園児はヘッドホーンをつけ、自分の思いと同じか違うかを、ピアノの音色で感じ取ります。

まとめのコンサートで、作られたばかりの園児の「子守歌」が2曲披露されました。久仁子氏は「恥ずかしがり屋の子の、ほんの少しの表情の変化、声の出る前の声から『コトバ』を引き出し、紡いでいく体験ができた。これが『音楽』そのものです」と話していました。